

■柏木如亭 屈指の抒情表現で化政期江戸詩壇を代表し、生涯後半を旅に過ごした飄零の漢詩人。

かしわざじよてい

幕府小普請方大工棟梁の子として江戸に生まれる。

田沼意次老中1772= 9歳 :

源内獄中死・1779=16歳 : 小普請方大工棟梁の職を継ぐ。

1781=18歳 : この頃、昌平饗の儒者平沢旭山に漢文を、市河寛斎に漢詩を学び始める。

田沼意次失脚1786=23歳 : 市河寛斎編「日本詩紀」の巻十の校定を担当する。

寛政改革始・1787=24歳 : 聖堂啓事役を辞職した市河寛斎が結成した{江湖詩社}に参加する。

初の横綱・1789=26歳 : この頃、「吉原詞」作詩。大窪詩仏・菊池五山が江湖詩社に参加。

異学の禁・1790=27歳 : この年刊の山東京伝の洒落本「傾城買四十八手」を一読し、評語を書き入れる。

混浴禁止・1791=28歳 : 向島弘福寺に{香山社}を結び、白楽天を祭る。

ワキマツ来日・1792=29歳 : この頃、\*向島東江寺に大窪詩仏と{二瘦詩社}を開く。

松平定信引退1793=30歳 : 上毛を経て信州善光寺へ遊歴する。第一詩集「木工集」刊行。

ワソグ正月・1794=31歳 : 小普請方大工棟梁を辞職。

写楽・1795=32歳 : \*江戸を去って信州中野に居を定め、{晚晴吟社}という詩社を開き、以後、各地を遊歴しながら詩作、

プロトノ来航・1796=33歳 : いったん江戸に戻り、再び信州に赴く。

昌平饗始・1797=34歳 : この頃、晚晴吟社の門人木百年と上越高田に遊ぶ。

古事記伝・1798=35歳 : 野沢温泉に湯治に赴き、俳諧師社入と知り合い、社入とともに新潟に遊んで越年。

蝦夷地直轄始1799=36歳 : 出雲崎に至り、元幕府御徒の新楽間里と知り合う。出雲崎諏訪明神社の社殿修復のための興行芝居に役者として出演、大当たりを取る。信州に戻る。

伊能測量始・1800=37歳 : 大窪詩仏が来訪し数日間滞在する。\*詩仏選評の{晚晴吟社}の詩集「晚晴吟社詩」出版。

宣長没・1801=38歳 : 江戸に戻る。「聯珠詩格訳註」出版。この頃、葛西因是の影響を受け、詩法を転換する。

膝栗毛始・1802=39歳 : この頃、芝赤羽橋付近に住む。如亭に改号し剃髪。翌年についで、雲室主宰の詩画の会小不朽社に参加。

バノ来航・1804=41歳 : 信州遊歴。神谷東溪鈔録「随園詩話」を校閲出版。この頃、荻生徂徠批判の書「弾呵録」を出版するも絶版。この年刊の佐原鞠鳩編「盛音集」に詩二首入集。

青洲麻酔手術1805=42歳 : 翌年についで、画家勾田台嶺とともに信越一帯を遊歴し、台嶺に画法を学ぶ。

バノ報復・1806=43歳 : 江戸への帰途、信州香桜村に木百年を訪い、折から滞在中の大窪詩仏と釧雲泉に邂逅。

バノ船狼藉・1807=44歳 : 市河寛斎編「三家妙絶」の跋文を撰する。上方遊歴に赴き、知人のもと寓しながら、伊勢国四日市で越年。

間宮海峡発見1808=45歳 : 東海道を後戻りし、富士山登山で遭難体験後、入京。稲毛屋山編「采風集」に詩十五首入集。

浮世風呂・1809=46歳 : 京都を発って備中国庭瀬に赴く。

1810=47歳 : 讃岐高松に遊歴し、庭瀬に戻る。第二詩集「如亭山人藁初集」出版。

ゴロブン拿捕 1811=48歳 : 京都に戻り、頼山陽・浦上春琴・小石元瑞・田能村竹田らと知り合う。

高田屋拿捕・1812=49歳 : 陰陽頭土御門(安倍)晴親の屋敷に寄寓。三河に遊歴し、知人のもとに寄寓後、京都に戻る。

浮世床・1813=50歳 : 膳所城下の最勝院に寄寓。東海道遊歴。信州遊歴し別所温泉に遊び、帰京。如亭編「宋詩清絶」刊行。

黒住教・1814=51歳 : 三河国吉田に遊んだ後、江戸に向い、島田で市河寛斎と邂逅。江戸に帰着し、大窪詩仏の詩聖堂に寄寓。

1815=52歳 : 梁川星巖や北原泰里と知合う。市河寛斎宅で菅茶山と出会い、高田与清のもとを大田南畝・岸本由豆流らと会う。信越遊歴に赴き、諸知友に寄寓し、木百年と邂逅。北原泰里・宮沢細庵・梁川星巖編「今四家絶句」(寛斎・如亭・詩仏・五山百絶)江戸で出版される。この年、一枚刷り「都下名流品題」が版行され、翌年にかけて江戸文人界に書画番付騒動起こる。

伊能測量終・1816=53歳 : 高蓬庵と阿賀野川に桃の花を見る。原松洲と新潟に遊ぶ。

杉田玄白没・1817=54歳 : 京都に向かい、道中で新年を迎える。

水野忠成老中1818=55歳 : 京都に着き、黒谷の廃寺を借りて紫雲山居と名付け、寓居とする。菅茶山と相互に訪問。讃岐の詩人牧棲碧の請いに応じて「如亭山人藁初集」の修訂版刊行を託す。讃岐遊歴に赴くも、船中の暑さにあたり、琴平の醸造家秦子栗に招かれ療養後、帰京。「詩本草」草稿なる。

群書類従完結1819=56歳 : 如亭・台嶺共編の「芥子園画伝」が築山梁山・服部竹鳩の増訂によって刊行。大坂に遊歴。いったん帰京後、\*四日市への遊歴に赴き、邂逅した梁川星巖に遺稿の出版を託す。伊賀上野に赴き、服部竹鳩の別荘で病を養うも、帰京し、\_没した。